

11班：「学生の姿・声を反映した教育改善に向けて」

○佐藤仁（福岡大学）、清水強志（創価大学）、北原香織（鶴見大学）、中島弘至（関西大学）、中野由美子（関西学院大学）、木梨憲一（就実大学）

1. 議論結果の概要

11班のメンバーは、全員私立大学の教職員であり、教学系のIR活動に携わっているもしくは重きを置いている方がほとんどでした。ただし、大学の規模に大きな相違があり、その点でそれぞれの大学の抱える課題がより鮮明に浮かび上がったかと思えます。

まず、メンバーの方々に紹介していただいた個別課題については、以下のようなものが挙げられます。

- ・ 各事務部署で利用しているデータに統一性がない（例えば、出身高校名や入試形態）。
- ・ データの必要性が学内で認識されていないので、データを提供しても響かないことが多い。
- ・ 学生調査が様々な部署で行われており、整理が必要。
- ・ 卒業生調査の方法論が定まっていない。
- ・ 学生調査の目的が明確でないため、項目数が多くなり、フィードバックが機能しづらくなっている。
- ・ 学生調査をどのような体制で運営するのか？（方法論、データの保管方法等）
- ・ 成績データをどう修学指導に活かすのか、という点での議論が不十分。
- ・ 退学問題について、データを通してどのような有効な解決策が導けるのか？
- ・ 学部の壁が高く、全学的な改革に向けて身動きがとりづらい状況にある。

各メンバーからの個別課題の報告を受けて、共通課題を見つけながら、ポスターの作成を行いました。11班では、上述したように、私立大学・教学系という共通点が多かったこともあり、共通課題としては、学生調査と成績不振学生への修学指導といった二つのトピックを導き出すことができました。このプロセスにおいては、ポストイットを使うことなく、お互いの議論の中で自然と導くことができたかと思えます。

共通課題を明確にしたのち、それを説明する個別課題を整理しました。ここでも、ポストイットを使うのではなく、お互いに意見を交換しあう中で、重要だと思われる具体的な課題をピックアップしていくことにしました。最後に、それらの課題をどう解決できるだろうか、という点について、お互いの経験や知見からヒントを出し合うことで、解決策を導き出していきました。

ポスター自体は、ポストイットを使うのではなく（上記のように、議論の整理は話す中で可能であったため）、すべて手書きしました。共通課題、個別課題、解決策を見渡した時に、メンバーの間で出てきたキーワードが、いかに学生の現場の姿をきちんと把握して、それをベースに教育改善を進めるかということでした。学生調査も、学生の姿や声をきちんと把握するための道具であるし、成績不振の学生の把握もどうすれば早目に対処できるかという観点から行われるもの。それらの重要性を再確認したいという意味も含めて、「学生の姿・声を反映した教育改善に向けて」

というタイトルを設定しました。

また、こうしたテーマに基づいてIRを進めていくためには、メンバー自身がデータや情報に真摯に向き合うこと、またIR関係者だけではなく、大学の構成員がデータに基づいて協力しながら、議論していくことの重要性も導くことができました。

2. グループ討論を通して感じた評価やIRを改善に活かすためのコツ、感想等

以下、二つの共通課題に沿う形で、まとめていきます。

学生調査については、まず目的の明確化が挙げられます。何を知りたいのか、結果を誰にどう生かしたいのか、という目的を明確にしない限り、「調査疲れ」を引き起こすだけです。特に、回答してくれる学生自身にとっても、どういう意味があるのかをきちんと明確にする必要があると思います。また学生調査の最終的なゴールは、具体的な改善策に結びつけること。そうであるならば、学生調査の結果を踏まえて、現実的な課題を対処するためには、ある程度の予算を確保しておく必要性もあります。こうした一連の教育改善を進めていくには、関係部署との連携も必要不可欠です。

成績不振の学生の把握については、すでに多くの大学でその方法や分析の観点が導かれています。ただし、学生がどう学ぶかということは、それぞれの大学のコンテキストに大きく依拠するものです。つまり、成績不振になる変数というのは、大学の数だけあるといっても過言ではありません。それゆえに、様々な大学の事例を参考にしながら、成績データや学生生活の実態データを活用することは重要ですが、一方で質的な調査を行うことも必要になってくると思われます。また、すでにいろいろな修学指導やサポート行っている現状からすれば、それらのサポートの効果を検証することも重要であるとも感じました。

11班

学生の姿・声を反映した教育改善に向けて

①

共通課題

学生調査

成績不振 学生の把握

②

個別課題

- 回答率
- 項目数
- 記名／無記名
- 重複調査
- フィードバック
- レポーティング

- 変数の多様さ
- 「成績不振」の定義づけ
- すでに行っているサポートの把握

③

解決策



- 目的・フィードバックの意味の明確化
(学生にとっての意味)
- 関係部署との連携
- 改善のための予算



かける

- 初年次教育の重要性
- 早期発見
- 入学時点での調査の重要性
- 質的な調査

◎ データに真摯に向き合い、教職協働で立ち向かう！